



おおや



12月号 R7.11.28

学校教育目標「心豊かでたくましい子の育成」

発行責任者
校長 田崎 守

上尾市立大谷小学校 上尾市大字大谷本郷 528 電話 048(781)0120

幸せを感じられる学校

校庭のイチョウが黄色く色づき、季節の移り変わりを感じます。暦の上では、「小雪」を過ぎ、日中は暖かさを感じることもありますが、朝夕の寒さや遠くに見える富士山に積もる雪を目にすると徐々に寒さが厳しくなっていることを感じます。振り返ると、11月は、運動会、市内音楽会、生活科・社会科見学、まち探検、なかよし集会など、多くの行事があり、充実した1か月でした。行事の中で、多くの経験を通して成長する児童の姿が見られ、非常にうれしく思いました。保護者・地域の皆様には、日々の教育活動はもちろんのこと、このような行事にも準備や登下校の見守りを含め、ご協力をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、ここまで無事に教育活動を進めることができました。

さて、以前読んだ本の中に「3つの幸せ」という心に残る言葉がありました。この言葉は、カー用品販売会社「イエローハット」の創始者の鍵山秀三郎さんの「ひとつ拾えれば、ひとつだけきれいになる」という著書の中にあるものです。鍵山さんは、掃除の実践を通じて社風を築いたことは有名な話ですが、今回の「3つの幸せ」の話でも有名な方です。

1つ目の幸せは、「してもらう幸せ」です。赤ちゃんが誕生し、お腹がすき大きな声で泣くと、お母さんはお乳をくれます。おむつが濡れて泣くと、おむつを替えてくれ、抱っこしてもらいたいと泣けば、抱っこしてもらえる。そうしてもらうことで赤ちゃんは泣き止みます。また、成長して「公園に連れて行ってもらった」「買い物に連れて行ってもらった」など、家族や友達等から何かをしてもらうと嬉しくなることもあります。これが「してもらう幸せ」です。

2つ目は、「できる幸せ」です。乳児は、それまで食べさせてもらっていたご飯を自分で食べたくさんります。親が食べさせようとご飯を口にもっていくとお茶碗とスプーンを持って自分で食べようとします。今までできなかつたことが自分の力でできると嬉しいため、ご飯をこぼしながらでも、何とか自分で食べるようになります。そして、成長とともに「自分で、自転車に乗れるようになった」「逆上がりができるようになった」「かけ算九九を言えるようになった」など、できることが増えていきます。これは、それまでできなかつたことができるようになる「自分ができるようになった幸せ」です。自分の努力により、できるようになるため、大きな自信につながります。

3つ目は、「してあげる幸せ」です。これが、とても大切な幸せだと思います。お家の人に頼まれて、それをやってあげるとお家の人はとても喜びます。また、友達のために何かをしてあげると、友達が喜ぶように「何かとしてあげる」ことで、人がとても喜びます。学校でも「困っている人がいたら、助ける」「独りでいる友達がいたら声をかける」など、他の人に対する「してあげる幸せ」です。誰かに何かをしてあげることで、相手の人は喜び、笑顔になって「してもらう幸せ」を感じます。

そして、その人の喜んでいる姿を見ることで、自分自身も「してあげる幸せ」として、「幸せ」を感じます。たくさんの人人が幸せを感じることができる、この「してあげる幸せ」が広がることは、学校に限らず、組織の中で過ごす上では、幸せを感じられるポイントのような気がします。

本日も、なかよし集会でも、「してあげる幸せ」の場面を多く見ることができ、これからも日々多くの児童が幸せを感じられる学校となるよう取り組んでいきたいと思います。



なかよし集会の準備をする様子